

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [金沢星稜大学] 担当教諭名 [清水 和久] (清水ゼミ3年 6名)

相手国・地域 [コスタリカ]

海外学校名 [ECCC Universidad de Costa Rica] 担当教諭名 [光吉 孝浩(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科		時間数
	単元名		
	国際教育	日本人の国際貢献	
	フィールド演習	国際協働学習	18

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	SDGs で越えていけ！未来の子どもたちへのかけ橋 ～今の地球的課題(水質汚染等)から目をそらさないで～
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	コスタリカは軍隊を持たない国であり、人材育成のための教育に予算を傾注している。また、再生可能エネルギー発電 100%の環境と、使い捨てプラスチックの全廃を目指している。しかし、海洋投棄されたプラスチックによるマイクロプラスチックは生態系を破壊しており、全世界共通の問題となっている。これらの問題を解決するには、次世代を担う子供たちが、SDGs教育によって現状を把握し、解決方法を世界的規模で模索していかなければならない。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
コスタリカは、軍隊を持たない分教育予算が充実していることを知った。TV 会議を 8 回行い、学生のライフスタイルは変わらないことも理解できた。最後の TV 会議では、やはり言葉も伝え合い作品を共同で作った達成感を共有できた。	本学の学生は教育実習があり、9、10月の活動ができないため、TV 会議を早めに行い、相互の国の学習後、7月中に壁画のデザインまで決めることとなった。一般的なスケジュールとは違ったが、チームごとの事情があり、事務局には理解して欲しかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

学生の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・コスタリカは遠い国だと思っていたが、相手の学生が日本について詳しくだったのでびっくりした。 ・海外に行かなくても、日本の文化は海外に誇れるものだとすることを相手の指摘から感じる事ができた。 ・SDGsの観点の課題を考えることは、今まであまりなかったが、特に環境について考える機会となった。 ・相手の国のことを描くので必然的に調べる必要がで、相手の国に興味を持つことができた。環境について目を向けていく必要性を感じた。 ・相手の顔をみて話すことができた。LINE のアプリなどは世界との交流に使えるとわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国の窓口が JICA の専門委員である日本人ということもあり、意思疎通はしやすかった。大学生なのでなるべく学生のリーダー同士の交渉を優先させてプロジェクトを進めることができた。交流前までは、コスタリカのことをよく知らなかったが、自然が豊かであり、教員を多く雇い、教育にお金をかけていることがよく分かった。 ・学生同士の自主的なコミュニケーションには TV 会議を多くとることが必要であり、回を追うごとに、学生が自主的に動き出すことが分かった。 ・大学生だからこそできる交流手段や内容をもっと工夫すればもっと深い交流ができると感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	6/13 TV 会議①自己紹介 6/20 各自のコスタリカ調べ 6/24 TV 会議②自己紹介、日本紹介	学生同士の親しみを持ちコスタリカの豊かな自然を知る。先方の学生が日本のアニメについて詳しいので驚く。	フィールド 演習
共有 テーマ学習	7月	6/24 JICA 光吉氏 TV 会議講演 SDGs 課題 4) 教育、7) エネルギー 14) 海の豊かさ、15) 陸の豊かさ 6/30 共有課題の提案(掲示板)	コスタリカの現状について知る。 TV 会議から教育や自然に注力していることを知る。 各自レポート作成。	国際教育 フィールド 演習
融合 メッセージ作成	7月	7/4 TV 会議③アイデア提案 7/18 TV 会議④話し合い 先方からの提案も受け入れる この後2か月活動休止	構図は、相手国の代表的な人物像を描く案を提案。SDGsの課題「自然、教育、再生可能エネルギー」を選択。教育という橋で結ぶ。いったん活動休止。	フィールド 演習
創造 壁画制作	10月 ～ 1月	日本側 教育実習後描画開始 11/16 TV 会議⑤途中経過報告 12/3 TV 会議⑥完成品報告 コスタリカ描画	絵について、アドバイスをもらう。 1週間で完成させて達成感を味わう。 コスタリカは大学が学生のストで開始が遅れる事情にびっくりする。	フィールド 演習
評価 振り返り 自己評価	2月	2/6 TV 会議⑦ 途中経過報告 絵についてのマイナス面も描画 2/12 TV 会議⑧ 完成作品鑑賞 2/26 作品到着後鑑賞	自然の美しさだけでなく、海の汚れも描画の中に入れることの合意。 自然がプラスチックで汚されていることの確認と対応方法について話す。	フィールド 演習

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	3	相手に日本文化を知らせる必要があったが、できれば地元の金沢の文化をつたえたかったが十分ではなかった。
異文化を理解する力	5	コスタリカについてよく調べ、自然が豊かであることを理解できたから。「プラビダ」という精神を学び、人生の生き方について学べたから。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	ネットを中心に調べ、TV 会議では身振り手振りもふくめて、他の楽しみながら情報を発信できたから。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	日常的には学生が LINE で連絡を取り合った。相手の母国語はスペイン語であり、英語はともに第2外国語でありその分やりやすかった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	コスタリカの相手の良さだけを描こうとしたが、TV 会議で現実の課題にも目を向ける、リサイクルの必要性を話合うことができたから。
主体的に考え行動する力	4	相手の絵ができてきた段階で、問題点も描きたいとする相手の提案を受けて、考え、その解決方法を色々調べることができたから。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	担当の学生は相手とLINEで連絡をとり絵のデザインをまとめることができたから。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	現実の問題点とそれを解決するための教育の重要性を絵に入れることができたから。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	海の部分は、ゴッホのような印象的な波になっているなど、自分たちの描いた部分にも手が増えられ力強さを感じることができていた。